

# 目 次

しかし勇気を.....1	イエスさまは命のパン.....24
神の知恵 神のみ業.....2	折々の祈りの中から.....25
失望せずに祈る.....3	イエスさまに求めよう.....27
ザアカイ.....5	ああ 主のことば.....29
天 国.....7	悲しみ 深い悲しみ.....30
主 よ.....9	救いの神なるイエスさま. .32
神のみことばによって.....10	雨降り 風吹き.....33
新しい恵み.....11	主の光の中に歩む.....34
ありのままということ.....12	神の言葉を無にしない.....36
口の言葉が.....14	語 る.....37
後ろのものを忘れ.....16	主の守り.....38
ユダとペテロ.....17	食べ物をごくさる神.....39
ヨセフの物語.....19	誰の罪のせいで.....40
詩篇に見る祈り.....20	神さまからのギフトの数々...43
神の主権.....22	思い煩わないで.....44
傷んだ葦 くすぶる燈心.....23	

## しかし勇気を

イエス様は弟子たちに「この世では悩みがある、しかし勇気をだしなさい」（ヨハネ 16・33）と言われました。またパウロも「この幕屋にいる私たちは、重荷を負って苦しみもだえている」（コリント第二 5・4）と言っています。

「私はクリスチャンですから、悩みなんて全くありません。すべて感謝 感謝 いつもハレルヤです。」という人がいますが、私はそれを聞いて「そんなことないなあ」と思います。自分も、重荷や悩みで押しつぶされそうになったりすることがありますし、多くの信仰者の悩みや苦しみを聞いて来ました。相談を受けて、共に涙を流しながら祈りあったことも数えきれないほどあります。

それは信仰不足の故、という事もあるかもしれませんが

んが、しかしそれよりむしろ、真面目な信仰者は、この歪んだ闇の世において、まっすぐに神に従おうと努めるからこそ、自分の弱さ、この世の悪、サタンの攻撃などの中で苦しみ悩むのだと思います。ごまかすことなく、自分や問題と向き合って生きようとする時、人は悩むのだと思います。

また愛に生きようとしても十分にはできない、たとえ自分は精一杯の事をしたとしても、相手には通じなかつた。誠心誠意励んでみたけど、芳しい結果は得られなかつた。自分の足りなさのせいでもあり、相手の問題のせいでもあり、時には双方のそれでもない、もつとなにかよくわからない必然のようなものによることもあるので、苦悩は増すようです。

悩むのは、人間として当然ですし、この罪の世で、肉をまつて生きる以上、悩まないほうがおかしいと、言えないでしょうか。良心的な人ほど、小さな自分の非にも、自責にかられて苦しむことも多いと思います

す。

しかし信仰者は、その悩みに押しつぶされてダメになつてしまふことがないので、幸いです。絶えず主に頼り、祈つて、みことばに励まされ教えられ、導かれて、苦悩や問題と闘いながらも、希望と力を持つて前進できるのです。信仰者の喜びは、罪赦された喜び、神に愛されている喜び、神との交わりの喜び、天のものに触れて心が満たされる喜び、主を知る喜び、みことばを開いて真理を求め、発見する喜びなどです。

この世のものとは違う喜びです。  
主は、信仰も愛も忍耐も、あらゆる面で足りない私たちと、何時も共にいて助けてくださいます。

悩む信仰者は、イエス様の十字架のお苦しみを心に刻み、主の側近く歩む人だと思えます。(ヘブル2・18、4・14〜16)

## 神の知恵 神のみ業

聖書に書いてあるとおり、目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神はご自分を愛する者たちのために備えられたのである。(コリント第一2・9)

神が人を救うために備えられたみ業は、人が考えも及ばなかったこと、神が人となつて地に降り、人として生きて、極悪人と同じ刑罰を受け、十字架の上で命を落とす、というもの。それが人の罪を赦し、生ける真の神との交わりを得させ、永遠の命を与え、この世においても人を聞と絶望と無力から救い、信じた者に平安と、希望と深い充足と、確かな人生を与えることなど、この十字架の福音を聞くまでは知るよしもなかった。十字架なんて、考えたこともなかった。(これは尊

い神秘であり、神の奥義だから)

優れた書物には、大事なこと、良いこと、教えられること、考えさせられること、が書いてあるだろうと誰でも考えるし、その予想はたいいていあたっている。

しかし聖書には、読む前には予想もしなかつたことが書いてある。だから多くの人は、聖書に書いてあることに魂消たり、反発したり、つまずいたりする。

生まれつきの心のままで聖書を読むと、たいいてい人は「何だこれは……」と、顔をしかめてページを閉じてしまう。そうして折角の聖書の光は隠され、聖書の中に輝いている、愛の神さまからの、比類なき救いの宝を手にはできないで終わる。

人がまず、自分の考えを心から抜いて、まっすぐ聖書に向きあつて読みつづける時、人はものすごいものを見る。知る。そして心が真理に捕らえられ、深く感動し、信仰が湧き、神を見出し、神の大きな愛を受けて、消えることのない光の中に生きるようになる。聖書

が、その人に閉じたままの時には、決して得られなかつた真の幸いを手にして、価値ある人生を歩めるようになる。それを励まし、導いてくださるのは聖霊さまだと聖書に書いてある。これも聖書に真摯に向かう者に対する、神の恵みのみ業だ。

えッほんとうですかと

びつくりする

聖書に見る神のみ業

その特別な愛

わかつた時の喜び

心の満たし

信じる者の人生に

湧きつづける力と希望

聖書をおし抱いて

神にすがる者すべてに

「試し読み」はここまでです。

お気に入りでしたら

ご注文ください。



Penguin Club

[www.penguinclub.net](http://www.penguinclub.net)